

令和5年度公共事業事後評価

農地防災事業

毘沙門地区

経済産業部 農地局 農地保全課

位置図／事業概要



施工箇所：伊豆の国市・函南町
受益面積：103.8ha
工期：平成12年度
～平成29年度
事業費：1,825百万円
事業内容：排水機場3箇所
畑毛排水機場 排水ポンプ 1基増設
昆沙門排水機場 排水ポンプ 1基増設
浮名排水機場 ポンプゲート 新設



平成10年8月集中豪雨湛水状況

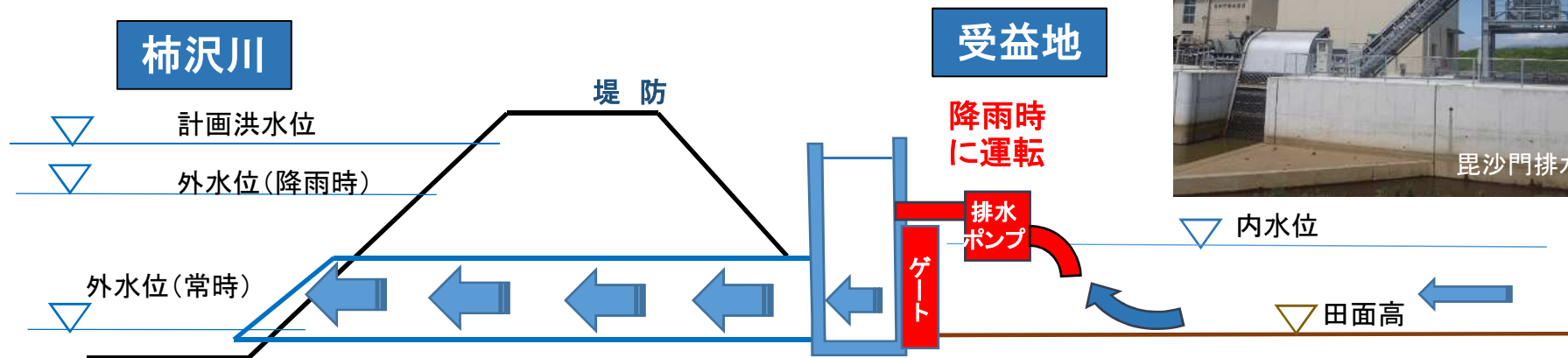
1 事業の目的・必要性

排水機場の整備

湛水時間を短縮

農作物等の
被害を軽減

1) 排水機場の役割



常時は柿沢川の水位が低いため、自然排水

降雨時に柿沢川の水位が上昇すると自然排水できないため、ポンプで強制排水

本事業の目的: 流域開発の進行による流出量の増加などに対応するため
ポンプの排水能力を增強

3 事業の効果の発現状況

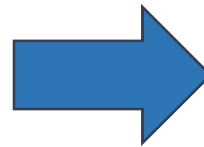
1) 農地、農業用施設被害の防止軽減の効果

比較対象とした降雨の状況



H10.8月豪雨
48時間雨量 247mm
→98ha浸水

事業実施



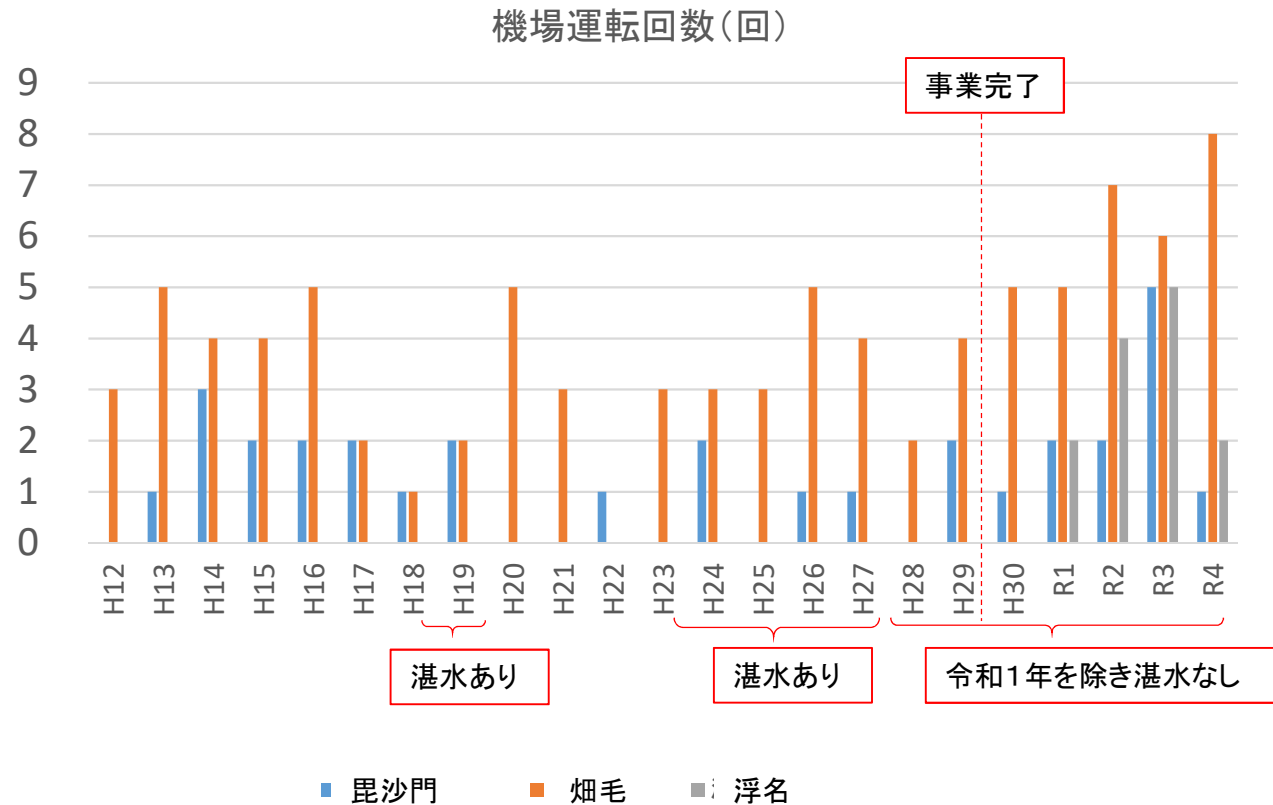
R3.7月豪雨
48時間雨量 326mm
→被害なし

時期	水害発生 年月	三島測候所	
		24時間雨量 (mm)	48時間雨量 (mm)
事業前	H10. 8	237	247
完成後	R3. 7	205	326

昆沙門排水機場
7/2～7/3
計39時間運転

計画基準雨量(1/20確率、3日連続雨量) 352.5mm【参考:311.3mm/48h】

3 事業の効果の発現状況

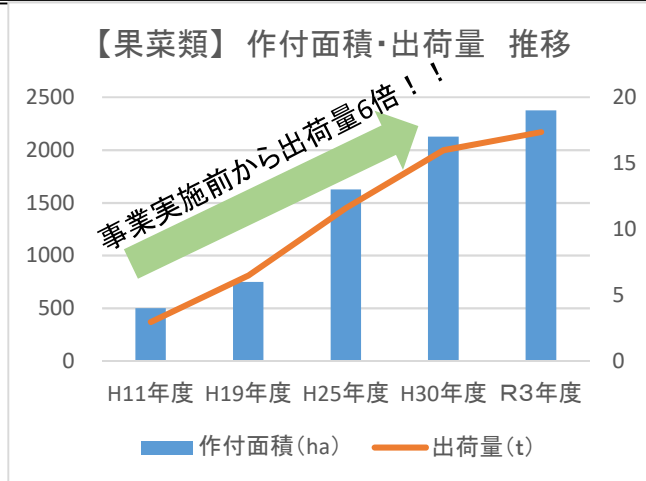


ポンプ運転員の声
 「整備完了後、格段に被害が無くなった」
 「令和元年豪雨時もポンプ増強で水の引きが早くなり、水稻の被害が減った」

近年、ポンプ運転回数は増加傾向にあるが、平成29年度の事業完了以降、設計雨量を大幅に上回る令和元年豪雨を除き浸水被害は発生していない。

4 事業実施による営農環境の変化

- ・事業開始後、湛水被害が軽減
- ・営農意欲が高まり、イチゴやトマトなどの施設園芸が増加
- ・施設栽培への新規就農者も増加
- ・伊豆の国市の果菜類出荷量は、事業実施前と比べて約6倍



総合的な排水対策が次世代の農業を支える重要な基盤となっている

5 社会経済情勢等の変化

地域社会の動向

- ・近年は台風等による豪雨が、激甚化、頻発化しており、排水機場等の適切な稼働による湛水被害の軽減がより一層求められている。
- ・事業実施地域である、奈古谷地区および畑毛地区では、事業実施前と比較して人口は維持されており、湛水被害の軽減が地域振興にも寄与しているといえる。

住宅地における人口の増減

奈古谷地区 : H12 1,281人 → R2 1,236人(▲45人)
畑毛地区 : H12 1,314人 → R2 1,414人(+100人)

6 対応方針（案）

評価結果

ポンプによる排水能力が増強



計画基準雨量以上（R3.7月）の降雨でも浸水被害を防いでおり、営農や生活環境が向上



事業効果は発現しており改善措置の必要はない

今後の課題等

- 突発的・想定を超える豪雨時の確実な機場の稼働と、操作員の安全確保
- 排水機場の遠隔監視制御・耐水化、適時適切な補修更新

同種事業への反映等

- 流域治水プロジェクトを国・市・町とともに推進
- 遠隔監視・遠隔制御化の推進